



戦意高揚紙芝居コレクションにみる戦時下用語

— 「登場人物編」その1

原田 広 (非文字資料研究センター 研究協力者)

はじめに

筆者は、非文字資料研究センター旧「戦時下日本の大衆メディア」研究班の一員として、2015年1月から2020年3月まで、本センターが所蔵する紙芝居コレクションの〈時代的特性〉の解明を目的とする研究報告全11回の連載を行ってきた（「戦意高揚紙芝居コレクションにみる戦時下用語—用語編」『ニューズレター非文字資料研究』No.33～No.43）。これは、本コレクション全241点の紙芝居脚本から、特殊に“戦時下の”と見做される「用語」を採録・分類した基礎資料に基づく試論である。

脚本・絵画・朗読を三位一体とする紙芝居において、このような脚本のみを対象とした分析が作品研究の全体性を欠くものであることは否定できない。しかし、敢えて脚本に材料を絞ったのは、一つには、絵画分析の基本的素養が筆者自身に“ない”との自覚があったからであり、もう一つは、紙芝居創作過程においてほぼ脚本が絵画に優先しており^{注1}、脚本を主導とする「主題の決定」「素材・背景の選択」「筋書の転換・展開」の在り様如何が、作品の基本的骨格と性格を決定づけると考えられたからである。これは、絵画が脚本に対して従属的位置にあることを主張するものではなく、絵画が脚本を補強する一体不可欠の要素であることはもちろん、その画風・画力が作品効果を演出し、実演場面において観客集団の眼を惹きつけるうえで決定的に重要な役割を果たしていることはいままでのまでもない。また脚本のみを対象とした背景として、私どもの共同研究発足時（2014年4月）に所蔵作品全点を解題・刊行する方針が決定していたこともあり—これを紙芝居作品への“接近戦”というとすれば、紙芝居コレクション全体への俯瞰的評価—いわば“広域戦”を戦うという研究上の要請に応える（また自身の関心を深める）ためには、作品の骨格・性格を優先的に決定づける脚本用語総体を横断的に分析することが有用な方法になると考えたところでもある。

冒頭にいう“戦時下”とは、昭和戦前期における最大の印刷紙芝居供給組織であった日本教育紙芝居協会の発足が1938年7月20日であること、本紙芝居コレクションの大半（241点中の233点）が1941～1944年の4年間に印刷・刊行された作品群であることから、直接的には1937年7月7日の盧溝橋事件から第二次世界大戦の敗戦に至る時期を指している。しかし、大衆メディアとしての紙芝居脚本上に踊る“戦時下”用語群は、我が国が日清・日露戦争を戦うことによって世界史の表舞台に登場し、第一次大戦に参戦するなかで軍部を中心に総力戦体制の構築が叫ばれるようになり、日中戦争をふくめて「大東亜戦争」と総称するに至る歴史の連続性のもとで生み出されたもの

であること、換言すれば昭和戦前期の政治・社会相は明治近代国家70余年の終局点であることを強く意識したものであった。

紙芝居脚本から、本研究報告の基礎資料となる特殊“戦時下の”と判断・採録した総件数は、「用語」が約770件、「登場人物名」は約520件である。この採録結果の総括的意味合いについては「用語編」第1回の冒頭に記したので繰り返さないが、多くの脚本に繰り返し出現する頻出語が、大衆的メディアとして流通した紙芝居脚本家の創作意識に汎く深く食い込んだいわゆる“時局”認識を表現するものであったことは疑うべくもない。研究報告「用語編」においては、これらの「用語」が生み出された社会的文脈、国民的時局認識を当て込んだ脚本化、頻用・リピートが持つこととなった社会的意味（あるいは紙芝居の役割）に焦点を当てることにより、紙芝居コレクションの“戦時下の”特性の解明を試行してきた。

登場人物編と用語編と相違

今号から研究報告「登場人物編」の連載を開始するにあたり、末尾に約520件の「登場人物一覧表」を付した。人名表記は原則的に脚本中のそれを転載したものであり、個々の典拠調整は行っていない。分類区分は、1 歴史上の人物 [1-1 皇族、貴族、官人]、[1-2 武家、武士]、[1-3 軍人、兵士]、[1-4 政治家]、[1-5 学者、文人]、[1-6 宗教、教育者]、[1-7 産業・実業家]、[1-8 その他]、2 一般、3 架空の人物 [3-1 著名]、[3-2 無名]である^{注2}。

「登場人物編」においても、紙芝居コレクションの“戦時下の”特性を解明するという目的そのものは「用語編」と同様である。異なるところは、「用語編」においては、それぞれの属性分野（国際関係、軍事、国内社会等）の括りごとに順次紹介・分析することがコレクション全体の特性を浮き彫りにすることに有用であったのに対して、「登場人物編」については、当該物語の人物配置や扱いに紙芝居作品によって大きな差がある（殊更に言及するほどに書き込まれてない人物も多い）ことから、上記の分類区分に基づく横断的紹介はおそらく有効性を欠くと考えられることである。

紙芝居という作品ジャンルに限らないが、誰を主人公にするかはすなわち作品の主題（テーマ）を選ぶことであり、その人物の生涯・事跡を描くことが直ちに物語（プロット）の運びとなり、さらに観客に対する定型的言説（メッセージ）として貫徹していくという点において、「登場人物」の表出性には「用語」との間に決定的な違いがある。それゆえ「登場人物編」においては、そ



の作品で< WHO: 誰が描かれているのか? > < WHY: 何故その人物なのか? > < HOW: どの様に描かれているのか? >—すなわち登場人物の選択と描き方に着目し、それを総括することによって戦時下紙芝居の“特異相”を明らかにしていくという方法をとることとした。選択された「登場人物」には予め固有の物語が付随している—これが本連載開始にあたって前提となる認識(出発点)である。

登場人物編と日本教育紙芝居協会の刊行方針

もう一つ前提とすべきは、本報告が依拠する作品の多くが、日本教育紙芝居協会(ないし出版機構としての日本教育画劇)からの刊行であることから、その組織使命に注目する必要があると考えられることである。ここでは、協会発足一月後の1938年9月5日に、印刷紙芝居の総合研究誌となる機関誌『教育紙芝居』の刊行を開始し、その冒頭に、いわば協会としての“紙芝居刊行方針”(下記)を標榜し宣言していることに注目したい。

協会当面の事業「今年一年の制作」

頒布作品: 国策、教材、幼児三本立てとして毎月系統的に制作します。作品内容は、左記項目中より、行事、教材等に結び付けて適当なものを選びます。

貸出作品: 猛烈な希望に完全に沿うためには本協会の在庫作品の十分な用意が必要です。

そのために今年中、各種紙芝居の新作を一百種つくります。その種類の大略は……

國體紙芝居: 國史の精華、日本民族の偉業、皇室と國民、歴代天皇の威徳、日本及日本人、武士道、國旗、祝祭日、日本の自然

國策紙芝居: 銃後物語、體位向上、更生運動、勤儉貯蓄、生活改善、防空知識、防火知識、労働奉仕、皇軍物語、長期建設、傷痍軍人慰問、選挙肅正、スパイ防止、海外雄飛、金献運動

教化紙芝居: 日本英雄傳、世界英雄傳、偉人物語、國民記念日、衛生防疫、事故防止、義士列傳、師弟物語、博愛物語、協同物語、純情物語、公民知識、國民禮式、乳幼児愛護、樹木愛護、母性保護

行事紙芝居: 各種行事、××週間、××デー

ニュース紙芝居: 戦局ニュース、時事問題、國際情勢、防共問題、政府施行事項、子供の新聞

教材紙芝居: 國史、滿州國史、支那小史、修身教材、地理教材、理科教材、體育、職業指導、校外教育、感化教育、聾啞教育、成人講座、技術教育、勞務者教育、幼児生活訓練

文化紙芝居: 日本の産業、國産品、重要資源、滿州の資源、支那の資源、日本の交通、軍器の話、各國の資源開發、日本文化史、文明の利器、發明發見物語、日本の科學、日本の諸藝術、常識科學、日本の觀光案内

名作紙芝居: 東西著名作、著名映畫、藝術創作、童話、世界藝術家列傳

娯樂紙芝居: 漫畫、各種ユーモア、大衆文藝、新興漫談、傳奇物語

大陸工作紙芝居: 防共、日支親善、王道精神、三民主義排撃、支那文化の精華、新興支那の英雄偉人、日本文化紹介、

宣撫班の活動、日本及日本軍、支那人のためのニュース、支那に於ける名作、生活改善、初歩の衛生思想、滿州建國史

輸出用紙芝居: 日本語學習用、日本文化紹介、戦時ニュース、正義日本宣揚

(『教育紙芝居』1巻1号、p.4。原文改行なし)

雑誌『教育紙芝居』は、5巻1号(1942年1月)より『紙芝居』に誌名変更しながら、同協会によって7巻10号(1944年10月)まで戦前期の刊行が維持されていく。その一方、紙芝居作品の刊行は、1940年9月以降、朝日新聞社の出資によって設立された出版部門「日本教育画劇」が担うことになる。

この協会発足後から画劇発足以前(1938年9月～1940年8月)の2年間に発行された作品は、雑誌『教育紙芝居・紙芝居』の広告等データの記録(『国策紙芝居からみる日本の戦争』Ⅲデータ篇、付録1)に拠って総数180点弱を数えることができる。私もどが行った全国調査(『上掲書』Ⅲデータ篇、全国書誌暫定版)では、協会刊行作品として20点余しか確認できていないことと比較して、協会発足後の2年間に180点という数値は、上記『教育紙芝居』創刊号の刊行方針を一正しい意味で一ほとんど“裏切らない”ものである。あくまで広告等データに拠るもので、その全てが協会作品とは限らないが、同誌の「掲載見出し」が“貸出作品目録”“頒布作品目録”“国策紙芝居全10巻”など、協会との関係をうかがわせるものであることから、大半は協会からの刊行作品と推定することができる。

それでは、上に示された協会発足時の関係者・創作者集団における「一年に新作100点」という刊行可能性に対する“決意”—或る種の“確信”“自信”に支えられたかにも見える—は、いったい何処から来るものであったのだろうか。「登場人物編」の連載を開始するに当たって、このような問いを問うことは無意味ではないと考えられる。

協会の組織体制を象徴するものとして、発足時の役員一覧を参照しよう。

理事長=大島正徳[帝国大学講師] 常任理事(以下2名)=安原清太郎[恩賜財団愛育会幹事] / 大島長三郎(青江舜二郎)[文学士] **理事**(以下11名)=大沼直輔[帝国少年団協会常任理事] 小柏丑二[東京市学務課長] 河崎なつ[文化学院教授] 久保田万太郎 倉橋惣三[東京女子高等師範学校教授] 福島繁三[大日本連合青年団理事] 松永健哉[日本教育紙芝居協会主事 文学士] 佐々木秀一[東京高等師範学校主事] 三浦碌郎[国民精神総動員中央連盟参与] 清水芳一[文部省社会教育局庶務課長] 柴田直[文部省社会教育局青年教育課長] **監事**=成瀬正勝[子爵] **顧問**=関屋龍吉[国民精神文化研究所長]

(『教育紙芝居』1巻1号、表2)

当時の活動分野や所属をみると、これらの人物は、①教育学・学校関係者(大島正徳、倉橋惣三、佐々木秀一、河崎なつ、松永健哉)、②演劇・文学関係者(大島長三郎(青江舜二郎)、久保田万太郎、成瀬正勝)、③国民精神運動関係者(大沼直輔、福島繁三、三浦碌郎、関屋龍吉)、④文部省・東京市職員(小柏丑二、清水芳一、柴田直)の四つに大別することができる(松永健哉の活動は②演劇・文学

関係にも跨っている)。この役員陣容には、「教育用素材」として、また伝統的「絵噺」の発展形として、さらには国民精神総動員運動の「教化手段」として、街頭紙芝居からの脱却と印刷紙芝居の普及活用を目指して結成された日本教育紙芝居協会という組織人事への“目配り”がうかがわれよう。

この役員陣のなかで、協会の母胎である日本教育紙芝居連盟時代から直接的に紙芝居に関与していたのは松永のみであり、彼は、協会設立後まもない1938年8月8日に常任理事・青江舜二郎への応召命令が下ったのち協会主事となる。しかしその翌月には松永にも陸軍省新聞班現地(中国)報道部員としての徴用が決まり、協会の実務は佐木秋夫(東京大学・宗教学)・砥上峰次(主事補)らが担うことになる(松永の帰国は1940年3月、協会理事に再就任)。また戦前・戦後をつうじて多くの紙芝居作品を創作していく堀尾勉(青史)が監事・成瀬正勝の推薦によって『教育紙芝居』の創刊号から編集発行者となり、浅草・妙音寺の鈴木景山も初期の頃より紙芝居の普及・啓蒙活動に関与している。

先にみた創刊号の“紙芝居刊行方針”に直接結実するような創作者集団の人的ネットワークを筆者は十分に解明できていないのだが、紙芝居の具体的な創作の現場は、主事・松永健哉以下の実務レベルにおいて担われていたことであろう。石山幸弘の労作『紙芝居文化史』(萌文書林、2008.1)によれば「初期の事業は綴り方教育運動……国分一太郎ら地方小学校教員の支持を得て童話や児童教育紙芝居が中心だった。設立一年後あたりから国策紙芝居、ニュース紙芝居、教化紙芝居、教材紙芝居、名作紙芝居……へと向かい対象も大人を含むものに拡大」していったとされている(p.76、「資料」要約)。

それではあらためて、これら「協会」揺籃期の関係者が抱いた「一年に新作100点」という刊行可能性に対する或る種の確信・自信をも滲ませる“決意”とは、いったい何処から来るものであったのか。「登場人物編」の連載開始に当たって筆者が備えている「回答」は、当面二つである。一つは、紙芝居創作者たちにおける我が国の文学・美術ジャンルの継承者たらんとする系譜意識であり、もう一つは上記の新作紙芝居区分にも示された多様な伝記類遺産の広がりからくる創作上の手応えである。

(1) 我が国の文学・美術ジャンルの系譜意識

紙芝居は、絵巻物・のぞきからくり・写絵・立絵など、我が国の伝統的「絵噺」メディアを源流として1920年代後半に登場したとされている。関東大震災後・昭和初期に登場し、一時大きな興業人気を博した街頭紙芝居は、長引く日中戦争への兵役徴集で興業者の減少という問題に直面するとともに、全メディアが言論統制の網の中に編入され、国策団体としての協会のもとで印刷紙芝居の大量生産時代を迎える。この当時、協会以外にも、今井よねの福音紙芝居(紙芝居刊行会)、高橋五山の幼稚園紙芝居(全甲社)、城戸幡太郎の保育紙芝居(保育問題研究会)、街頭紙芝居系の制作会社を統合した大日本画劇など複数の紙芝居団体が活動していたが、とりわけ国策団体として設立された協会には、制作点数・主題分野の豊富さ・作品の完成度をふ

くむ紙芝居創作・普及の総合力において、これらの競合団体を凌ぐべき役割が期待されていたであろう。そのような期待や役割を担っていた協会揺籃期の関係者においては、印刷紙芝居の社会的地位と芸術性の向上を図ろうとする様々な努力が払われていた。雑誌『教育紙芝居』の記事からも、協会に出入りする様々な分野の人々の努力・協力の痕跡や論争の熱量をうかがうことができる(以下引用文^{注3}中の下線は筆者)。

初代常任理事・青江舜二郎は、1939年2月の巻頭論文「馬車を待つシンデレラ」で、自ら劇作家の立場から、紙芝居の有する演劇性について次のような設問を投げかけている。

今日の紙芝居はどうあろうと、紙芝居というものは本来映画よりも、芝居に近いものなのである。……/演者と對者との直接的、人間的な交流、時間空間のあらゆる制約から来る印象の強烈、直観力、想像力への深酷な訴えかけ。演劇の有する不自由な諸要素(そしてこれなくしては演劇は絶対に存在しない。)は、紙芝居に於て一層深酷である。/この立場から紙芝居を検討して見る必要がある。/1.主題の相剋葛藤のかたちで扱われているか。2.各場面は、一つの「点」にまで精練され、圧縮されているか(紙芝居の各場面は枚数の制約上映画の「カット」であってはならない。それは一にして多くを含む、芝居の「場」であることを要する)。3.絵は「掛図」になっていないか、「挿絵」になっていないか。4.文章は、会話は、単なる「説明」や「お話」に墮していないか。5.最小の技巧、最小の表現による最大の効果(絵、言葉、構成、音響、操作、説明、各方面にわたり)。6.(要するに)その原始性は、常に最も健全に脈打っているか。
(『教育紙芝居』2巻2号、p.2、紙芝居と演劇の交流特集)

ここに挙げられた「主題の葛藤性」「各場面の自立性」「絵・文章相互の主導性・牽引力」「技巧の節度と効果」といった芸術的諸点への緊張感の高い問いかけは、紙芝居の創作・実演現場に向けられた本質的で臨場感に満ちたものであり、これを読み返す現代においても、紙芝居創作者に対して向けられるべき設問の強度を失っていないように思われる。

さらに、協会関係者における紙芝居の芸術性に対する自問・追及は、街頭紙芝居や立絵・のぞきからくりの時代を一コマ飛ばして、近代以前の芸術的源流に遡及した様々の正統系譜論となって表れている。

例えば(時期は前後するが)、雑誌『紙芝居』で辛辣な作品批評を連載していた本山荻舟は、或る「紙芝居の元祖発見」の報道について、次のように記している^{注4}。

岡山県で、紙芝居の元祖というべき作品が大量に見られたとの報道に接した。……その作品は神代から始まって幕末まで、神話や史実に立脚して尊皇護国の国体精神を発揚した歴史書、150枚の1連の紙芝居になっているらしい。作者は佐藤正持という江戸生まれの画家で、通称、理三郎と呼ばれていた。幕末勤王思想の勃興に際し、自分の画技から思いついて、読史のウンチクを盛り、自作自画の紙芝居を携えて街頭に乗り出したとい



うのだから、紙芝居の元祖であったと共に、勤王運動の先駆者であった筈。当然、幕吏の迫害を蒙り江戸を脱して倉敷に滞留、その有志を足場にして付近に紙芝居を続ける傍ら『皇朝画史』を製作。日柳燕石等と親交があり、讃岐へも往復したが、安政4年49歳で一生を終えた人らしい。筆者も近く一見するつもりだが、百年近い前の紙芝居と、現在の紙芝居と、比較対照してみるのも興味があり楽しみだ。

(『紙芝居』6巻4号、p.22)

また、複数の協会紙芝居関係者のなかから、紙芝居の芸術的源流として我が国の「絵巻物」を取り上げ、その研究・活用の必要を指摘するものが現れる。

堀尾 勉：

絵巻物を見ていると面白い。これは確かに紙芝居的だ。例へば信貴山縁起の俵の飛んでゆくところなんか、クルクル早くめくると、映画の視覚なんかより余程愉快だし表現の躍動的なること、亦、はるか上をゆく。大衆が理解することは難しいだろうが、紙芝居も芸術性の高度を自然に欲求してくるから、試みとして何か絵巻物の翻案のようなことをやったらどうだろうか(後略)。

(『教育紙芝居』2巻10号、p.26、後記、堀)

鈴木 景山：

紙芝居の歴史をここで申上げるのではありませんが、街頭の紙芝居というものは、出雲阿国という女が出て、歌舞伎というものが自然発生的に出来たと同じように、自然発生的な大衆的のものである。しかし私共は、目的意識的に、紙芝居がこうなればならぬという理想を一つ建てまして、それに向かって行って居るのでありまして、そこに自ら芸術性の問題が中心になってくると思います。それではそのあるべき紙芝居とはどういう形のものであるか、私はこれを日本絵巻の演劇的展開と考えたい。この絵巻物というのは、言葉と絵とから成立して居ります。私共が紙芝居を芸術として取上げます時に、日本の芸術様式のどのような所に紙芝居の血筋を求むべきか、そう言った考え方から日本の絵巻物にまで遡り得るといふ確信を持つのであります。

(『少国民文学』昭和17年11月、座談会・紙芝居の芸術性の問題をめぐって)

川路 柳虹：

日本では珍しい「物語絵」が大昔からある。それは「絵巻物」で、一場面づつ連続的に示したもので、その内容ははじめ仏教の布教上の手段として高僧の物語とかお寺の沿革由来とかを「縁起」というが、「信貴山縁起」「粉河寺縁起」というようなものと、戦争を取扱った戦記絵巻で「平治戦絵巻」とか「蒙古襲来絵詞」のようなものが沢山ある。絵巻物には絵の前に詞書(ことばがき)というものがついている。それは物語を説明文で記したもので、それをよくよんでから絵を観ると内容がわかる。(中略)これは日本の絵巻物の特徴で、どこの国の絵にもこんな描法はない。絵巻物くらい適切な「物語るため」の作品はないと言える。その描法も「大和絵」と呼ばれるもので、日本独特の発達をした色彩鮮やかな絵画だ。即ち日本における最も進歩し

た「物語絵」の形式は遠く平安末鎌倉初期に完成されたと思う。／(中略)「物語る絵」の特質を大衆的に生かすものとして紙芝居絵はもっと芸術的に発達させてもいいと思われる。絵巻物の伝統が錦絵となり、錦絵が近代印刷技術の進歩で美術性を奪われたのに対しそれと同じ伝統にある紙芝居絵が新しい角度から進歩した「物語る絵」として芸術性を取り戻すのも意義あることに思われる。

(『紙芝居』6巻1号、p.44)

サイン「堀」から推定される脚本家・堀尾勉の「紙芝居も芸術性の高度を自然に欲求してくるから、試みとして何か絵巻物の翻案のようなことをやったらどうだろうか」という言表は、彼のその後の作品結実を短文中に予告しているかもしれない。堀尾が西正世志と組んだ『芭蕉』『一茶』などの芸術志向作品は、演劇との対比で青江舜二郎が投げかけた「各場面は一つの「点」にまで精練・圧縮されているか」などの問いかけに答える作品であっただろう。戦時プロパガンダ色濃厚な多くの作品に関与した鈴木景山もまた、主に脚本家として絵画と一線を画しているのだが、紙芝居の芸術的地位の向上に向けた目的意識を表明している。彼の「絵巻物の演劇的展開」というスローガンは、「我々が紙芝居を文化運動として取り上げ満2年経過した……我々の新しい紙芝居に特に重んじられる芸術様式とは、『絵』と『詞』と『演出』の3要素が演劇的展開に合致する」(『紙芝居』3巻9号)として示されていたものであった。鈴木一人が掲げた旗印が協会全体としてどのように共有され実現していったかはフォローし難いところだが、口語自由詩人・美術評論家であった川路柳虹からの「(寺社縁起や戦記絵巻などの)絵巻物と同じ伝統にある紙芝居絵が新しい角度から進歩した『物語る絵』として芸術性を取り戻すのも意義ある」との寄稿は、紙芝居分野とは異なる外部からの指摘として(外部者であるがゆえになおさら)、我が国の文学・美術ジャンルの継承者たらんとして芸術性の向上を志向していた協会関係者・創作者を激励するものであったに違いない。

上には「絵噺」「物語り絵」の系譜に連なる「絵巻物」の伝統性を取り上げたが、当時の紙芝居創作者にとって、「絵巻物」以外にも、我が国における“ものがたり”の水源に事欠くことはなかったと考えられる。「民話」「昔話」「説話」等の伝承文学は、形を変えながら子ども向け“ものがたり”ジャンル(紙芝居の有力な一分野でもある)に受け継がれてきたであろう。絵入り版もある江戸初期『伊曾保物語』から明治期『イソップ童話集』の成立・普及が与えた影響(修身教科書にも取り入れられた)も無視することはできない。インド・中国・日本の3国にわたる仏教訓話・世俗譚を収載した『今昔物語』『沙石集』『日本靈異記』等は中世・近世の「御伽草子」「仮名草子」「浮世草子」等の庶民文学や、『耳袋』『江戸繁昌記』等の市中巷説・奇談・風俗記等にまでその素材・話法が取材されている。『平家物語』『将門記』『曾我物語』『義経記』『太

平記』等の軍記物、『巖流島実録』『赤穂義士伝』『大岡政談』などの実録本と、江戸期に様式化された「歌舞伎」「人形浄瑠璃」、さらには独演芸「講談」「義太夫」「浪花節」との相互的な影響関係については枚挙するにいとまがない。これに『神皇正統記』『日本外史』などの史書も加えることもできよう。これら諸ジャンルのなかに営々と伝承されてきた“ものがたり”の蓄積は、今に生きる我々と比較した場合、当時の日本人成年者にとって遙かに身体深く染みついた劇交じりの記憶であり、「歌舞伎」や「浪花節」は音曲をも総合した“国民的教養”ともいべきものであった筈である。

多くは日露「戦後」世代に属する世代によって担われただろう1930～40年代の紙芝居もまた、こうした先人の創造物の模倣と翻案、パロディとアレンジを芸術創造の基本的営為とする権利を主張し認められるべき位置にあった。1938年9月『教育紙芝居』創刊号の冒頭に掲げられた協会としての“紙芝居刊行方針”には、協会に懸けられた期待を担い切ろうとする決意が見られるとともに、「一年に新作100点」という目標を現実的な射程に収めるうえで、これらの伝統的“ものがたり”資源から確かな手応えを得ていたと推測することができる。

(2) 多様な伝記類遺産の広がりに対する手応え

「一年に新作100点」という刊行可能性に対するもう一つの自信を支えたのは、協会の「新作紙芝居区分」にも示されていた我が国の多様な伝記類遺産から得られる手応えであろう。上にあげた“ものがたり”群も当然にそこに登場する「人物」を伴うものであるが、初期協会の関係者においては、より直接的なかたちで、日本および世界の有名人伝記資料が創作資源として意識されていたのではないかと推測する。

創刊号の「新作紙芝居区分」から、そのことを示す箇所を抜き出すと下記の通りである。

教化紙芝居: 日本英雄傳、世界英雄傳、偉人物語、義士列傳
教材紙芝居: 國史、修身教材

名作紙芝居: 東西名著名作、世界藝術家列傳

カテゴリー区分の厳密性は措いて、この複数の伝記類区分の例示からストレートに読み取れることは、古今東西の著名人の事跡を紙芝居の創作主題として採用することの、或る種の“容易さ”というものであろう。著名な人物の「生まれ育ち、才能、人生上の労苦、事業達成の努力、協力者あるいは敵手の存在、後世への貢献・遺徳」等の物語伝承は、そのまま一つの作品となり得るからである。それが「教化」を意図しようが、「教材」への活用であろうが、あるいは「名作」と謳おうが、“題材選択の容易さ”一すなわち量的達成への一義的通路に本質的異同は存在しない。人物伝記は、紙芝居制作上の有力な水源であったと考えられるのである。上記区分・教化紙芝居の「國史」「修身」は、国定教科書の副読本への活用を想定したものであろう。

しかし急いで留保せねばならないが、いわゆる英雄伝・偉人伝等が、その安定したエピソードに依拠しながらマスとしての読者を獲得してきたものであればあるほど、後世の伝記作家・研究者によって新たな評価を含む物語叢生の自由性が高いことが、これら伝記文学領域の特色である。そして題材選択の“容易さ”ということは、紙芝居創作者の力量に係る「作品の質的問題」とはまったく異なる次元に属する。それ

ゆえに、再び先の青江舜二郎の言を引用すれば、「絵は『掛図』になっていないか、『挿絵』になっていないか。文章は、会話は、単なる『説明』や『お話』に墮していないか」という本質的な問いに晒されるのである。

また、伝記領域の作品が有する物語り性の自由度は、創作者が依拠する伝記資料の相違によっても生じる。一方に、例えば菊池容齋筆『前賢故實』という江戸時代後期から明治時代に刊行された伝記集がある。古代から南北朝時代までの皇族・忠臣・烈婦などの肖像と漢文略伝を付したもので、明治初期の紙幣・学習教材にも利用され、明治中期頃から盛んに描かれた歴史画においてパイブルとしての役割を果たしたとされる(Wikipedia)。もう一方に、例えば「立川文庫」という明治末期から大正期に刊行された大衆文庫がある。主に少年を対象とした講談・戦記・史伝などで構成されていたが、大人向け大衆文芸や時代劇にも大きな影響を与えた。さらには、昭和初期に国民的な修養・立身出世指南書として読まれたであろう『修養全集』12巻(大日本雄辯會講談社刊)といった資料も挙げておくべきかもしれない^{注5}。前者のごとき硬質の本格的資料から、後2者のような軟らかい大衆的資料に至るまでの幅を有する膨大な伝記情報のなかから、読者の需要との関係で如何なる作品価値(文学的・芸術的真意)を新たに付加することができるか否かも問われるのである。ここで例えば、戦時下に生まれた伝記文学の代表格である吉川英治『宮本武蔵』(1935～1937年朝日新聞連載)と太宰治『右大臣実朝』(1943年9月)の国民的影響と文学的達成の両極性に着目することは不当ではあるまい。

さらに、歴史的人物像には時代によってイメージ・評価の転変が必然的につき纏うのであり、近世以降だけを見ても、江戸期に儒学・国学の興廃があり、明治初期に廃仏毀釈の嵐が吹き荒れ、戦時下に皇国イデオロギーが席捲するなかで、一時期の指導者が歴史の底辺に葬られ、逆に表舞台に呼び戻され神格化されるという英雄の衰亡・再生があった。歴史的評価に振れ幅の大きい人物として、平将門、楠木正成、足利尊氏、井伊直弼、西郷隆盛らが直ちに思い浮かぶところであり、この一部は後文の紙芝居作品紹介において検証の対象となるだろう。この点に係り特記すべきことは、1872(明治5)年「学制」発布による国民皆学の普及と、1903(明治36)年に導入されて以来すでに30年以上の蓄積を有していた「国定教科書」の影響である。とりわけ歴史(国史)・国語・修身といった科目に盛り込まれた体系的「知識」と統一された「叙述」が与えた国民的影響において、教科書を凌ぐものは存在しなかったと考えられる。

筆者は、1938年当時に表明された「一年に新作100点制作」という協会関係者の自信・確信が、我が国の“ものがたり”資源とともに、伝記文学を有力資源とした紙芝居制作上の“題材選択の容易さ”に支えられていたであろうと推測した。しかしここまで来たところで、そのような「紙芝居制作方針」に基づいて創作された紙芝居がどのような作品群であったのか一戦時下という特殊な状況において一その一点に向かい合うべき段階である。次号以降、本センター所蔵紙芝居脚本から採録した約520件の「登場人物」のうち、主要な登場人物(主



人公等)を彼らが活躍した時代ごとに取り上げ、戦時下紙芝居のなかに招聘された人物とは誰か(WHO)、なぜその人物なのか(WHY)、その人物は作品中でどのように描かれているのか(HOW)を具体的に明らかにしていきたい。冒頭に述べた本稿の課題一本センター紙芝居コレクション中の「登場人物」の選択と描き方を総括することによって得られるであろう戦時下紙芝居の〈特異相〉—それは、紙芝居作品の主題として当該人物が取り上げられた当時の社会的背景とともに、紙芝居中の人物像に仮託した国民的な期待というもう一つの“ものがたり”を明らかにすることにつながるであろう。

登場人物の区分(紹介順)は、戦時下紙芝居の同時代(昭和前期)から順次古代にまで遡り、外国人および架空の人物をとりあげ、最後に描かれるべくして描かれなかった人物に言及する。対象とする人物名は下記の予定である。

- (1) 現代(昭和前期): 山本五十六、上田定、岩佐直治、加藤建夫、ハリマオ、飯沼正明、東條英機、橋田邦彦、斎藤辰次郎
- (2) 近代(明治・大正): 大村益次郎、西郷隆盛、小村寿太郎、日清戦争の殉難者、日露戦争の軍神、野口英世
- (3) 近世(江戸時代): 徳川家康、大石内蔵助、松尾芭蕉、小林一茶、本居宣長、頼山陽、二宮尊徳、大原幽学、濱口梧陵、伊能忠敬、間宮林蔵、高田屋嘉兵衛、山田長政、宮本武蔵、清水次郎長
- (4) 中世(鎌倉・室町時代): 源実朝、源義経、弁慶、北條時宗、亀山上皇、日野資朝、日野邦光(阿新丸)、新田義貞、楠木正成、楠木正行、後醍醐天皇
- (5) 古代(奈良・平安時代): 大伴部博麻、和氣清麿、歌人・文人(柿本人麻呂、大伴旅人、菅原道真)、古代の天皇
- (6) 外国人: フビライ、リコルド、ジョン・コンティ、ルーズベルト、チャーチル、蒋介石
- (7) 架空の人物: 天照大神、神武天皇、大国主命、神功皇后、金太郎、桃太郎、フクちゃん
- (8) 描かれなかった人物: 歴代天皇(神代以降)ほか

(続)

注1. 協会理事の佐木秋夫に「紙芝居の製作過程は原作→脚本→演出脚本→絵→整理→印刷、配給→実演と成る。」(「紙芝居講座」『紙芝居』5巻1号、p.62)という記述がみられる。また戦後になって、戦時下紙芝居の絵画をそのまま活かしながら脚本に改変を加えて再演に供したと考えられる事例が少なからずある。いずれも紙芝居創作における脚本の優先性を示すものといえることができる。

注2. 伝記人物の分類については、滋賀大学附属図書館教育学部分館「近江の人物が登場する旧教科書展—平成19年8月1日(水)～8月10日(金)、別表1 国定修身及び国語教科書に現れた人物の登場課数」(『図書館だより・きょういく』2007年8月1日)がある。同館の分類区分は次の通り—「皇室」「為政者」「官僚・役人」「実業家」「庶民」「学者(思想家)」「芸術家」「社会強化・社会事業家」「武人・武士」「軍人」「文学上の人物」—。本文参照と筆者の採録作業時期とが相前後したため分類区分の調整には至らなかった。

注3. 復刻雑誌『教育紙芝居』『紙芝居』からの引用は、子どもの文化研究所・高瀬あけみ氏に本センターが依頼し

ている記事インデックス化作業(タイピング)による。

注4. 『皇朝画史』は倉敷市立美術館所蔵。紙芝居始祖説は1943年岡山県紙芝居連盟によって広められたものようであり、数少ない関連論稿として、石山幸弘「佐藤正持 紙芝居の始祖」説を巡って(『風文学紀要』第11号、群馬県立土屋文明記念文学館、2007年3月)がある。

注5. 『修養全集』(大日本雄辯會講談社刊)の巻構成は次の通りである。—1. 聖賢偉傑物語、2. 東西感動美談集、3. 金言名句人生画訓、4. 寓話道話お伽噺、5. 修養文藝名作選、6. 滑稽諧謔教訓集、7. 經典名著感話集、8. 古今逸話特選集、9. 訓話説教演説集、10. 立志奮闘物語、11. 處世常識寶典、12. 日本の誇(国立国会図書館サーチ)。

別表 登場人物一覧

*セル色区分 黄色：主人公
緑色：準主人公

区分1	区分2	人名
1 歴史上	1-1 皇族、貴族、官人	有栖川織仁
1 歴史上	1-1 皇族、貴族、官人	龜山上皇
1 歴史上	1-1 皇族、貴族、官人	桓武天皇
1 歴史上	1-1 皇族、貴族、官人	北島嗣家
1 歴史上	1-1 皇族、貴族、官人	クビライ
1 歴史上	1-1 皇族、貴族、官人	元正天皇
1 歴史上	1-1 皇族、貴族、官人	孝謙天皇
1 歴史上	1-1 皇族、貴族、官人	皇后陛下 (明治)
1 歴史上	1-1 皇族、貴族、官人	後宇多天皇
1 歴史上	1-1 皇族、貴族、官人	光仁天皇
1 歴史上	1-1 皇族、貴族、官人	孝明天皇
1 歴史上	1-1 皇族、貴族、官人	後醍醐天皇
1 歴史上	1-1 皇族、貴族、官人	後鳥羽上皇
1 歴史上	1-1 皇族、貴族、官人	四条隆資
1 歴史上	1-1 皇族、貴族、官人	持統天皇
1 歴史上	1-1 皇族、貴族、官人	称徳天皇
1 歴史上	1-1 皇族、貴族、官人	聖武天皇
1 歴史上	1-1 皇族、貴族、官人	菅原道真
1 歴史上	1-1 皇族、貴族、官人	清和天皇
1 歴史上	1-1 皇族、貴族、官人	大塔宮護良親王
1 歴史上	1-1 皇族、貴族、官人	多治比廣成
1 歴史上	1-1 皇族、貴族、官人	筑紫君薨夜麻
1 歴史上	1-1 皇族、貴族、官人	常良親王
1 歴史上	1-1 皇族、貴族、官人	天智天皇
1 歴史上	1-1 皇族、貴族、官人	中臣善官阿曾麻呂
1 歴史上	1-1 皇族、貴族、官人	成良親王
1 歴史上	1-1 皇族、貴族、官人	仁徳天皇
1 歴史上	1-1 皇族、貴族、官人	土師連富村
1 歴史上	1-1 皇族、貴族、官人	日野資朝
1 歴史上	1-1 皇族、貴族、官人	冰連老
1 歴史上	1-1 皇族、貴族、官人	藤原時平
1 歴史上	1-1 皇族、貴族、官人	藤原仲麻呂
1 歴史上	1-1 皇族、貴族、官人	藤原百川
1 歴史上	1-1 皇族、貴族、官人	藤原宇合
1 歴史上	1-1 皇族、貴族、官人	明治天皇
1 歴史上	1-1 皇族、貴族、官人	弓削連元寶兒
1 歴史上	1-1 皇族、貴族、官人	和氣廣忠
1 歴史上	1-1 皇族、貴族、官人	和氣清盛
1 歴史上	1-2 武家、武士	秋月種美
1 歴史上	1-2 武家、武士	浅野重盛
1 歴史上	1-2 武家、武士	浅野大弐
1 歴史上	1-2 武家、武士	浅野内匠頭
1 歴史上	1-2 武家、武士	浅野弾正
1 歴史上	1-2 武家、武士	浅野長友
1 歴史上	1-2 武家、武士	足利尊氏
1 歴史上	1-2 武家、武士	足利直義
1 歴史上	1-2 武家、武士	足利義政
1 歴史上	1-2 武家、武士	足利義満
1 歴史上	1-2 武家、武士	井伊直助
1 歴史上	1-2 武家、武士	池田信輝
1 歴史上	1-2 武家、武士	石田光成
1 歴史上	1-2 武家、武士	井芹経秀
1 歴史上	1-2 武家、武士	井芹永秀
1 歴史上	1-2 武家、武士	井芹善二郎
1 歴史上	1-2 武家、武士	井戸平左衛門
1 歴史上	1-2 武家、武士	今井九朗
1 歴史上	1-2 武家、武士	今奉部與曾布
1 歴史上	1-2 武家、武士	岩川延親
1 歴史上	1-2 武家、武士	宇間大藏左衛門
1 歴史上	1-2 武家、武士	上杉謙信
1 歴史上	1-2 武家、武士	上杉鷹山
1 歴史上	1-2 武家、武士	上杉治廣
1 歴史上	1-2 武家、武士	大石内蔵助
1 歴史上	1-2 武家、武士	大石瀨左衛門
1 歴史上	1-2 武家、武士	大石主悦
1 歴史上	1-2 武家、武士	大岡越前守
1 歴史上	1-2 武家、武士	大高源五
1 歴史上	1-2 武家、武士	大館氏明
1 歴史上	1-2 武家、武士	大館宗氏
1 歴史上	1-2 武家、武士	大谷吉隆
1 歴史上	1-2 武家、武士	大友貞宗
1 歴史上	1-2 武家、武士	大伴部博麻
1 歴史上	1-2 武家、武士	大友貞親
1 歴史上	1-2 武家、武士	大野九郎兵衛
1 歴史上	1-2 武家、武士	大野都衛門
1 歴史上	1-2 武家、武士	岡島八十衛門
1 歴史上	1-2 武家、武士	岡野九十郎
1 歴史上	1-2 武家、武士	織田信長
1 歴史上	1-2 武家、武士	小野寺幸右衛門
1 歴史上	1-2 武家、武士	小野寺十内
1 歴史上	1-2 武家、武士	小野寺十兵衛
1 歴史上	1-2 武家、武士	小野寺丹
1 歴史上	1-2 武家、武士	海江田武次
1 歴史上	1-2 武家、武士	加賀守恵時 (種子島恵時)
1 歴史上	1-2 武家、武士	新納八郎太
1 歴史上	1-2 武家、武士	鶴川與三兵衛
1 歴史上	1-2 武家、武士	榊山資紀
1 歴史上	1-2 武家、武士	菅野三平

区分1	区分2	人名
1 歴史上	1-2 武家、武士	河津三郎
1 歴史上	1-2 武家、武士	神崎与五郎
1 歴史上	1-2 武家、武士	菊池寛勝
1 歴史上	1-2 武家、武士	菊池武重
1 歴史上	1-2 武家、武士	菊池武吉
1 歴史上	1-2 武家、武士	菊池武時
1 歴史上	1-2 武家、武士	菊池頼隆
1 歴史上	1-2 武家、武士	菊池武房
1 歴史上	1-2 武家、武士	菊池武光
1 歴史上	1-2 武家、武士	菊池武房
1 歴史上	1-2 武家、武士	吉良上野介
1 歴史上	1-2 武家、武士	桐野利秋
1 歴史上	1-2 武家、武士	楠木正茂
1 歴史上	1-2 武家、武士	楠木正行
1 歴史上	1-2 武家、武士	楠木正時
1 歴史上	1-2 武家、武士	工藤佑経
1 歴史上	1-2 武家、武士	阿新丸
1 歴史上	1-2 武家、武士	黒井忠寄
1 歴史上	1-2 武家、武士	神代直人
1 歴史上	1-2 武家、武士	河野通時
1 歴史上	1-2 武家、武士	河野通忠
1 歴史上	1-2 武家、武士	河野通有
1 歴史上	1-2 武家、武士	高師直
1 歴史上	1-2 武家、武士	高師泰
1 歴史上	1-2 武家、武士	香山左衛門
1 歴史上	1-2 武家、武士	近藤重敏
1 歴史上	1-2 武家、武士	酒巻鶴鳥
1 歴史上	1-2 武家、武士	佐藤文四郎
1 歴史上	1-2 武家、武士	島津義弘
1 歴史上	1-2 武家、武士	島津彰久
1 歴史上	1-2 武家、武士	少武 資能
1 歴史上	1-2 武家、武士	少武 貞経
1 歴史上	1-2 武家、武士	少武 景資
1 歴史上	1-2 武家、武士	少武 経資
1 歴史上	1-2 武家、武士	新宮十蔵
1 歴史上	1-2 武家、武士	杉野十平次
1 歴史上	1-2 武家、武士	瀬尾孫左衛門
1 歴史上	1-2 武家、武士	宗助国
1 歴史上	1-2 武家、武士	曾我太郎
1 歴史上	1-2 武家、武士	曾我師助
1 歴史上	1-2 武家、武士	平清盛
1 歴史上	1-2 武家、武士	平信元
1 歴史上	1-2 武家、武士	高杉晋作
1 歴史上	1-2 武家、武士	高橋作左衛門
1 歴史上	1-2 武家、武士	高村権内
1 歴史上	1-2 武家、武士	武田勝頼
1 歴史上	1-2 武家、武士	武田信玄
1 歴史上	1-2 武家、武士	武田信廉
1 歴史上	1-2 武家、武士	竹林唯七
1 歴史上	1-2 武家、武士	竹俣当綱
1 歴史上	1-2 武家、武士	帯刀正時
1 歴史上	1-2 武家、武士	帯刀正行
1 歴史上	1-2 武家、武士	玉虫九朗衛門
1 歴史上	1-2 武家、武士	田村右京太夫
1 歴史上	1-2 武家、武士	田安宗武
1 歴史上	1-2 武家、武士	津田越前守助廣
1 歴史上	1-2 武家、武士	津田内匠頭助直
1 歴史上	1-2 武家、武士	徳川家達
1 歴史上	1-2 武家、武士	徳川家斉
1 歴史上	1-2 武家、武士	徳川家康
1 歴史上	1-2 武家、武士	徳川綱吉
1 歴史上	1-2 武家、武士	徳川吉宗
1 歴史上	1-2 武家、武士	豊臣秀吉
1 歴史上	1-2 武家、武士	長束正家
1 歴史上	1-2 武家、武士	成田氏長
1 歴史上	1-2 武家、武士	名和長年
1 歴史上	1-2 武家、武士	南部実繼
1 歴史上	1-2 武家、武士	南部実長
1 歴史上	1-2 武家、武士	南部信政
1 歴史上	1-2 武家、武士	南部正光
1 歴史上	1-2 武家、武士	南部光行
1 歴史上	1-2 武家、武士	南部師行
1 歴史上	1-2 武家、武士	和田新免意
1 歴史上	1-2 武家、武士	西沢行広
1 歴史上	1-2 武家、武士	新田義頭
1 歴史上	1-2 武家、武士	新田義貞
1 歴史上	1-2 武家、武士	荻野善政
1 歴史上	1-2 武家、武士	野村弥吉
1 歴史上	1-2 武家、武士	間重次郎
1 歴史上	1-2 武家、武士	服部十郎左衛門
1 歴史上	1-2 武家、武士	服部安兵衛
1 歴史上	1-2 武家、武士	羽太正義
1 歴史上	1-2 武家、武士	早水藤左衛門
1 歴史上	1-2 武家、武士	原盛右衛門
1 歴史上	1-2 武家、武士	平松金次郎
1 歴史上	1-2 武家、武士	藤原秀衛
1 歴史上	1-2 武家、武士	船田義昌
1 歴史上	1-2 武家、武士	舟渡

区分1	区分2	人名
1 歴史上	1-2 武家、武士	北条氏照
1 歴史上	1-2 武家、武士	北条時宗
1 歴史上	1-2 武家、武士	北条時頼
1 歴史上	1-2 武家、武士	北条泰家
1 歴史上	1-2 武家、武士	北条高時
1 歴史上	1-2 武家、武士	北条時宗
1 歴史上	1-2 武家、武士	北条時頼
1 歴史上	1-2 武家、武士	北条泰家
1 歴史上	1-2 武家、武士	細川顯氏
1 歴史上	1-2 武家、武士	細川弥兵衛
1 歴史上	1-2 武家、武士	本多佐渡守
1 歴史上	1-2 武家、武士	本間山城入道
1 歴史上	1-2 武家、武士	本間三郎
1 歴史上	1-2 武家、武士	前原伊助
1 歴史上	1-2 武家、武士	真木和泉
1 歴史上	1-2 武家、武士	松平定邦
1 歴史上	1-2 武家、武士	松平定信
1 歴史上	1-2 武家、武士	松平伊豆守
1 歴史上	1-2 武家、武士	松本奎堂
1 歴史上	1-2 武家、武士	間宮林蔵
1 歴史上	1-2 武家、武士	三浦義勝
1 歴史上	1-2 武家、武士	三朝伊織
1 歴史上	1-2 武家、武士	源実朝
1 歴史上	1-2 武家、武士	源義経
1 歴史上	1-2 武家、武士	源義朝
1 歴史上	1-2 武家、武士	源義家
1 歴史上	1-2 武家、武士	源頼朝
1 歴史上	1-2 武家、武士	三村次郎佐
1 歴史上	1-2 武家、武士	宮本武蔵
1 歴史上	1-2 武家、武士	三好重道
1 歴史上	1-2 武家、武士	武蔵守忠時 (種子島忠時)
1 歴史上	1-2 武家、武士	村上義清
1 歴史上	1-2 武家、武士	毛利元就
1 歴史上	1-2 武家、武士	森左近
1 歴史上	1-2 武家、武士	柳生但馬
1 歴史上	1-2 武家、武士	矢頭右衛門七
1 歴史上	1-2 武家、武士	矢頭長助
1 歴史上	1-2 武家、武士	八幡弥四郎
1 歴史上	1-2 武家、武士	山内一豊
1 歴史上	1-2 武家、武士	山縣正景
1 歴史上	1-2 武家、武士	山名時氏
1 歴史上	1-2 武家、武士	山本英左衛門
1 歴史上	1-2 武家、武士	吉田忠左衛門
1 歴史上	1-2 武家、武士	劉仁願
1 歴史上	1-2 武家、武士	脇坂淡路守安照
1 歴史上	1-2 武家、武士	脇坂義助
1 歴史上	1-2 武家、武士	脇坂次郎義介
1 歴史上	1-2 武家、武士	和田太郎
1 歴史上	1-2 武家、武士	安田次郎兵衛
1 歴史上	1-3 軍人、兵士	荒尾精
1 歴史上	1-3 軍人、兵士	石川五一
1 歴史上	1-3 軍人、兵士	石川光順
1 歴史上	1-3 軍人、兵士	岩佐直治
1 歴史上	1-3 軍人、兵士	上田定
1 歴史上	1-3 軍人、兵士	内田精一
1 歴史上	1-3 軍人、兵士	大村益次郎
1 歴史上	1-3 軍人、兵士	加藤建夫
1 歴史上	1-3 軍人、兵士	川上操六
1 歴史上	1-3 軍人、兵士	栗原悦太郎
1 歴史上	1-3 軍人、兵士	栗玉源太郎
1 歴史上	1-3 軍人、兵士	ゴローニン、V.M.
1 歴史上	1-3 軍人、兵士	沢庵之丞
1 歴史上	1-3 軍人、兵士	島村信正
1 歴史上	1-3 軍人、兵士	橋本太
1 歴史上	1-3 軍人、兵士	谷干城
1 歴史上	1-3 軍人、兵士	谷村計介
1 歴史上	1-3 軍人、兵士	津野田是重
1 歴史上	1-3 軍人、兵士	寺内寿一
1 歴史上	1-3 軍人、兵士	寺澤孔一
1 歴史上	1-3 軍人、兵士	東郷平八郎
1 歴史上	1-3 軍人、兵士	ドレーク、フランシス
1 歴史上	1-3 軍人、兵士	中津藩
1 歴史上	1-3 軍人、兵士	ニヴェル、ロベール
1 歴史上	1-3 軍人、兵士	根津一
1 歴史上	1-3 軍人、兵士	乃木希典
1 歴史上	1-3 軍人、兵士	ノックス、W. フランク
1 歴史上	1-3 軍人、兵士	日高壮之丞
1 歴史上	1-3 軍人、兵士	フィリップス、トーマス
1 歴史上	1-3 軍人、兵士	フォッシュ、フェルディナン
1 歴史上	1-3 軍人、兵士	藤崎秀
1 歴史上	1-3 軍人、兵士	ペルー、マシュー
1 歴史上	1-3 軍人、兵士	ボス、ピーター
1 歴史上	1-3 軍人、兵士	松村秀徳
1 歴史上	1-3 軍人、兵士	柳川中尉
1 歴史上	1-3 軍人、兵士	山川浩
1 歴史上	1-3 軍人、兵士	山崎謙三郎
1 歴史上	1-3 軍人、兵士	山崎元治
1 歴史上	1-3 軍人、兵士	山本五十六
1 歴史上	1-3 軍人、兵士	山本権兵衛



区分1	区分2	人名
1 歴史	1-3 軍人、兵士	与合知実
1 歴史	1-3 軍人、兵士	リコルド、P.I
1 歴史	1-4 政治家	阿部信行
1 歴史	1-4 政治家	伊藤博文
1 歴史	1-4 政治家	江兆銘
1 歴史	1-4 政治家	大山巖
1 歴史	1-4 政治家	桂太郎
1 歴史	1-4 政治家	加藤友三郎
1 歴史	1-4 政治家	金子堅太郎
1 歴史	1-4 政治家	木戸孝允
1 歴史	1-4 政治家	黒田清隆
1 歴史	1-4 政治家	近衛秀磨
1 歴史	1-4 政治家	小村寿太郎
1 歴史	1-4 政治家	西郷隆盛
1 歴史	1-4 政治家	佐野常民
1 歴史	1-4 政治家	三条実美
1 歴史	1-4 政治家	幣原喜重郎
1 歴史	1-4 政治家	蔭介石
1 歴史	1-4 政治家	杉村陶太郎
1 歴史	1-4 政治家	チャーチル、W
1 歴史	1-4 政治家	デービス、ノーマン
1 歴史	1-4 政治家	寺内正毅
1 歴史	1-4 政治家	東条英機
1 歴史	1-4 政治家	ナポレオン、ボナパルト
1 歴史	1-4 政治家	橋田邦彦
1 歴史	1-4 政治家	本多熊太郎
1 歴史	1-4 政治家	芳川顕正
1 歴史	1-4 政治家	ルーズベルト、セオドア
1 歴史	1-4 政治家	ルーズベルト、フランクリン
1 歴史	1-4 政治家	山縣有朋
1 歴史	1-5 学者、文人	伊藤仁斎
1 歴史	1-5 学者、文人	上原四郎
1 歴史	1-5 学者、文人	海犬義岡麻呂
1 歴史	1-5 学者、文人	太田蜀山人
1 歴史	1-5 学者、文人	大伴家持
1 歴史	1-5 学者、文人	大原綱学
1 歴史	1-5 学者、文人	緒方洪庵
1 歴史	1-5 学者、文人	緒方洪哉
1 歴史	1-5 学者、文人	御橋雅文
1 歴史	1-5 学者、文人	柿本入麻呂
1 歴史	1-5 学者、文人	加田春満
1 歴史	1-5 学者、文人	賀茂真淵
1 歴史	1-5 学者、文人	河合曾良
1 歴史	1-5 学者、文人	キューリー、ビエール
1 歴史	1-5 学者、文人	キューリー夫人
1 歴史	1-5 学者、文人	契沖
1 歴史	1-5 学者、文人	小林一茶
1 歴史	1-5 学者、文人	西行
1 歴史	1-5 学者、文人	シーボルト、F.フランツ
1 歴史	1-5 学者、文人	十返舎一九
1 歴史	1-5 学者、文人	斯波園女
1 歴史	1-5 学者、文人	柴野栗山
1 歴史	1-5 学者、文人	志水南涯
1 歴史	1-5 学者、文人	高橋虫麻呂
1 歴史	1-5 学者、文人	高山彦九郎
1 歴史	1-5 学者、文人	徳富蘇峰
1 歴史	1-5 学者、文人	内藤文草
1 歴史	1-5 学者、文人	中江藤樹
1 歴史	1-5 学者、文人	野口英世
1 歴史	1-5 学者、文人	野村望東尼
1 歴史	1-5 学者、文人	萩原宗固
1 歴史	1-5 学者、文人	橋本左内
1 歴史	1-5 学者、文人	堀保己一
1 歴史	1-5 学者、文人	林子平
1 歴史	1-5 学者、文人	林羅山
1 歴史	1-5 学者、文人	藤田東湖
1 歴史	1-5 学者、文人	藤原為氏
1 歴史	1-5 学者、文人	ヘボン
1 歴史	1-5 学者、文人	細井平洲
1 歴史	1-5 学者、文人	堀景山
1 歴史	1-5 学者、文人	堀元厚
1 歴史	1-5 学者、文人	堀達之助
1 歴史	1-5 学者、文人	松尾芭蕉
1 歴史	1-5 学者、文人	三瀬語淵
1 歴史	1-5 学者、文人	向井去来
1 歴史	1-5 学者、文人	室鳩巢
1 歴史	1-5 学者、文人	本居宣長
1 歴史	1-5 学者、文人	森嘉善
1 歴史	1-5 学者、文人	山田宗編
1 歴史	1-5 学者、文人	横井小楠
1 歴史	1-5 学者、文人	吉田松陰
1 歴史	1-5 学者、文人	頼山陽
1 歴史	1-5 学者、文人	頼三樹三郎
1 歴史	1-5 学者、文人	頼弥太郎
1 歴史	1-5 学者、文人	山鹿素行
1 歴史	1-6 宗教、教育	お釈迦様
1 歴史	1-6 宗教、教育	小野老
1 歴史	1-6 宗教、教育	恩地左近
1 歴史	1-6 宗教、教育	国仲公麻呂
1 歴史	1-6 宗教、教育	月照

区分1	区分2	人名
1 歴史	1-6 宗教、教育	宏覚禅師
1 歴史	1-6 宗教、教育	慈覚大師
1 歴史	1-6 宗教、教育	杉浦重剛
1 歴史	1-6 宗教、教育	須達長者
1 歴史	1-6 宗教、教育	禪海
1 歴史	1-6 宗教、教育	誓宗
1 歴史	1-6 宗教、教育	道鏡
1 歴史	1-6 宗教、教育	日龍
1 歴史	1-6 宗教、教育	日蓮
1 歴史	1-6 宗教、教育	波斯匿王
1 歴史	1-6 宗教、教育	弘光国師
1 歴史	1-6 宗教、教育	矢島頼子
1 歴史	1-6 宗教、教育	路豊永
1 歴史	1-6 宗教、教育	晋宣阿蘇麻呂
1 歴史	1-7 産業・実業	アダムス、ウィリアム
1 歴史	1-7 産業・実業	伊能忠敬
1 歴史	1-7 産業・実業	猪山作之丞
1 歴史	1-7 産業・実業	金原明善
1 歴史	1-7 産業・実業	栗林次兵衛
1 歴史	1-7 産業・実業	重富平左衛門
1 歴史	1-7 産業・実業	高田屋嘉兵衛
1 歴史	1-7 産業・実業	デイビス、ジョン
1 歴史	1-7 産業・実業	二宮尊徳
1 歴史	1-7 産業・実業	濱口梧陵
1 歴史	1-7 産業・実業	濱田新蔵
1 歴史	1-7 産業・実業	濱田彌兵衛
1 歴史	1-7 産業・実業	ハリマソン、E.ヘンリー
1 歴史	1-7 産業・実業	木松平右衛門
1 歴史	1-7 産業・実業	山下助左衛門
1 歴史	1-7 産業・実業	山田長政
1 歴史	1-7 産業・実業	ヨウステン、ヤン
1 歴史	1-7 産業・実業	和久右衛門
1 歴史	1-8 その他	雨宮校校
1 歴史	1-8 その他	大政
1 歴史	1-8 その他	郭務宗
1 歴史	1-8 その他	鐘崎三郎
1 歴史	1-8 その他	草野次郎
1 歴史	1-8 その他	小政
1 歴史	1-8 その他	清水次郎長
1 歴史	1-8 その他	谷次満子
1 歴史	1-8 その他	常盤御前
1 歴史	1-8 その他	ハリマオ
1 歴史	1-8 その他	平田造酒
1 歴史	1-8 その他	松下神尼
1 歴史	1-8 その他	真名女
1 歴史	1-8 その他	頼静子
2 一般	2 一般	上原志郎
2 一般	2 一般	飯沼正明
2 一般	2 一般	上野精一
2 一般	2 一般	遠藤良左衛門
2 一般	2 一般	太田治右衛門
2 一般	2 一般	大村忠輔
2 一般	2 一般	加藤哲蔵
2 一般	2 一般	川口陽介
2 一般	2 一般	岸トシ子
2 一般	2 一般	草間六兵衛
2 一般	2 一般	小池正雄
2 一般	2 一般	小林栄
2 一般	2 一般	コンデー
2 一般	2 一般	斎藤辰次郎
2 一般	2 一般	笹川繁蔵
2 一般	2 一般	佐多愛彦
2 一般	2 一般	サト一八チロー
2 一般	2 一般	澤木幸男
2 一般	2 一般	静馬
2 一般	2 一般	島津源蔵
2 一般	2 一般	下瀬雅允
2 一般	2 一般	鈴木庄蔵
2 一般	2 一般	須知源次郎
2 一般	2 一般	高原正作
2 一般	2 一般	瀧佐右衛門
2 一般	2 一般	竹崎順子
2 一般	2 一般	タムソン、デイビッド
2 一般	2 一般	チュルパン
2 一般	2 一般	血闘盛之助
2 一般	2 一般	ツルー、マリア
2 一般	2 一般	寺西多美弥
2 一般	2 一般	戸田又太夫
2 一般	2 一般	中島正剛
2 一般	2 一般	藤田少尉
2 一般	2 一般	藤原銀次郎
2 一般	2 一般	ブレスナー、サイモン
2 一般	2 一般	矢島忠左衛門
2 一般	2 一般	安川亨
2 一般	2 一般	ヤング、A.ウィリアム
2 一般	2 一般	由利貞三
2 一般	2 一般	レビット婦人
2 一般	2 一般	渡部鼎
2 一般	2 一般	永野助七郎
2 一般	2 一般	我松忠恒

区分1	区分2	人名
2 一般	2 一般	吉尾忠次郎
2 一般	2 一般	高木清隆
2 一般	2 一般	上野権右衛門
2 一般	2 一般	村上政明
2 一般	2 一般	塚越賢爾
2 一般	2 一般	湯浅義行
2 一般	2 一般	筒井金市
2 一般	2 一般	平野俊助
2 一般	2 一般	名和吉己
3 架空	3 架空著名	天照大神
3 架空	3 架空著名	五瀬命
3 架空	3 架空著名	大國主命
3 架空	3 架空著名	乙姫
3 架空	3 架空著名	金太郎
3 架空	3 架空著名	神功皇后
3 架空	3 架空著名	神武天皇
3 架空	3 架空著名	七夕姫
3 架空	3 架空著名	長髄彦
3 架空	3 架空著名	菟生
3 架空	3 架空著名	花サカジイ
3 架空	3 架空著名	フクチャン
3 架空	3 架空著名	武設
3 架空	3 架空著名	桃太郎
3 架空	4 架空無名	浅田五郎
3 架空	4 架空無名	浅田正一
3 架空	4 架空無名	池上綾子
3 架空	4 架空無名	石川久磨
3 架空	4 架空無名	石川政信
3 架空	4 架空無名	伊那田三平
3 架空	4 架空無名	大川貞助
3 架空	4 架空無名	大澤栄三
3 架空	4 架空無名	大澤次郎
3 架空	4 架空無名	大野新六
3 架空	4 架空無名	沖
3 架空	4 架空無名	小畑俊夫
3 架空	4 架空無名	梶原少佐
3 架空	4 架空無名	勝田妙子
3 架空	4 架空無名	勝村
3 架空	4 架空無名	川邊主水之介
3 架空	4 架空無名	栗原信吉
3 架空	4 架空無名	コーニ
3 架空	4 架空無名	小山義夫
3 架空	4 架空無名	佐倉武夫
3 架空	4 架空無名	佐藤一郎
3 架空	4 架空無名	禅海
3 架空	4 架空無名	曹秀文
3 架空	4 架空無名	孫秋蘭
3 架空	4 架空無名	孫味身
3 架空	4 架空無名	高木登志子
3 架空	4 架空無名	高橋一作
3 架空	4 架空無名	田中新一
3 架空	4 架空無名	月ヶ瀬甚左衛門
3 架空	4 架空無名	鉄山和尚
3 架空	4 架空無名	戸田庄三
3 架空	4 架空無名	戸田豊
3 架空	4 架空無名	土木
3 架空	4 架空無名	土村寛太
3 架空	4 架空無名	豊島六郎
3 架空	4 架空無名	藤原喜衛門
3 架空	4 架空無名	並木政五郎
3 架空	4 架空無名	野上啓作
3 架空	4 架空無名	橋本房江
3 架空	4 架空無名	平田茂平
3 架空	4 架空無名	町田清一
3 架空	4 架空無名	松本三郎
3 架空	4 架空無名	光村清二
3 架空	4 架空無名	森田仁八
3 架空	4 架空無名	山賀五郎
3 架空	4 架空無名	山口安子
3 架空	4 架空無名	山村彦兵衛
3 架空	4 架空無名	吉田太郎
3 架空	4 架空無名	ロナニ

*人名は原則として脚本中の表記をそのまま採録
 *外国人名は「姓」に続け必要に応じて「名」を付記
 *同一区分内は五十音順に配列